

巻頭 ● 「反安保実行委員会 2012-13」への参加・賛同を！——領土問題で噴出する「米軍必要論」「日米安保＝安全神話」を砕く闘いを共に

一昨年、新しい反安保行動をつくる実行員会から「脱皮」した「反安保実行委員会 2010-2011」への参加・賛同を募る際に、私たちは、次のように呼びかけた。

「民主党鳩山政権の沖縄新基地づくりをめぐる『迷走』は、(略)「沖縄の基地問題は、日米安保体制こそが問題だ」と言う、あたりまえの事実を、少なからぬ人びとに直面させた。／今こそ、安保体制を問い、この軍事同盟の打破に向けて取り組むことが更に必要である——そういう気運が、全国の反基地・反戦運動グループの間にみなぎっていることを、私たちは「2010安保連絡会」の活動を通して強く実感した。／私たちは(略)「反安保実行委員会」という名称で新たな実行委員会の結成を呼びかける——反安保闘争こそをメインの課題にする決意を込めて」。

あれから二年。現在の私たち(反安保の闘い)の状況は、以前にもまして厳しい。

私たちの前にある言説の典型は、「尖閣列島への『侵略』を防ぐためにも米軍は必要だ」と主張する。しかもその多くは、「オスプレイの配備がそのためにも重要だ」とつけ加えることを忘れない。噴出する「領土ナショナリズム」は、「米軍の存在は日本防衛のための抑止力」というデマゴギーをさらに強固なものにしている。

3・11の福島原発事故は、それまでの原発「安全神話」を粉々に砕き、今、原発の再稼働に反対する大きな声が全国で広がっている。しかし、

日米安保・米軍抑止力という「安全神話」(デマゴギー)に抗する声は、原発の声に比すれば「本土(ヤマト)」では圧倒的に小さい。「本土(ヤマト)」における反安保の闘いとは、このデマゴギーとの闘いともいえる。オスプレイが引き起こす沖縄へのさらなる負担・危険の押しつけと、低空飛行で全国にまき散らす危険(地位協定の差別性)への抵抗を軸に、「米軍抑止力」のデマ(それは冷静な目からは全く自明なことなのだが)を暴き続ける闘いを粘り強く続けていくことを改めて決意する。

そのために「反安保実行委員会 2012—13」への参加・賛同を呼びかけます。

ともに「安保破棄」に向けて闘いましょう！
二〇一二年九月六日

反安保実行委員会

◆参加・賛同費◆

個人 一〇〇〇円 / 団体 三〇〇〇円

◆郵便振替口座◆

口座番号：0015009466604

加入者名：反安保実行委員会

◆連絡先◆

TEL 03-3254-5460 東京都千代田区神田淡路町1-21-7

静和ビル2A 淡路町事務所気付

TEL&FAX: 03-3254-5460